

# 京都市多文化施策懇話会 ニュースレター No.13



編集：京都市多文化施策懇話会事務局（京都市総合企画局国際化推進室）

2014（平成26）年4月30日発行

## 2013（平成25）年度第3回会議を開催しました

- <日時>** 2013（平成25）年12月12日（木）午前10時～10時20分（施設見学）、  
午前10時20分～12時（会議）
- <場所>** 京都市養正保育所
- <議題>** 「多文化共生と就学前子育て」

第3回会議では、「多文化共生と就学前子育て」をテーマに、京都市左京区にある京都市養正保育所で会議を開催しました。会議の前には養正保育所の施設を見学し、外国籍等の子どもたちが活動している様子を見学しました。会議では、養正保育所長の橋本久美氏から保育所での具体的な取組の紹介と共に「京都市養正保育所における多文化共生保育について」の報告をいただきました。また、左京区で地域での子育て支援活動をされている、「Jafore（ジャフォール）日本語を母語としない家族のための子育て支援チーム」の西恵味氏から、地域での子育て活動について御報告いただき、全員で意見交換を行いました。



### 報告1 — 京都市養正保育所における多文化共生保育について —

京都市養正保育所 所長 橋本久美氏からの報告

京都市養正保育所の入所児童は合計194名（2013（平成25）年12月時点）であり、うち外国籍児童は24名、また、国籍は日本も含めると10箇国になります。養正保育所は左京区にあり、保育所の周りに大学が多いという立地から留学生や研究者の子どもたちが入所していますが、2、3年という短期間の滞在の場合も多く、年度途中に入所や退所をされる方も多くいます。

#### ●子どもの様子・子どもへの関わりについて

養正保育所では、宗教上食事に配慮が必要な子どもや、手で直接食べる等の日本とは異なった食文化を持つ子どももおり、それぞれに対応し、日本での食事の作法なども教えています。外国籍の子どもは、入所当初は日本語でのコミュニケーションが難しく、周囲の様子をじっくりと見ているようですが、保育士が子どもの不安を取り除くため、母国語を用いて会話をするなどの工夫を行っています。

#### ●外国籍の保護者への対応について

日本語ができないことで不安を感じている方が多くおり、子どもの病気等、細かい様子を伝える必要がある際に保育士とのコミュニケーションが難しい場合があります。そうした際には、英語を紙に書いたり、ジェスチャーや絵を書くなどをするなどでコミュニケーションを図り、信頼関係を築くようにしています。また、保育所から保護者へのお便りのうち、大事なものについては英語に翻訳したものを作成しています。

## ● 所長から

幼い頃から様々な国の子どもたちと触れ合うことで、文化や言葉が違って「ともだち」として認め合い、お互いを受け止め合えることができます。子どもたちには、自分の周りに様々な国籍の方がいることを当たり前のこととして受け入れ、互いの違いを認め合えるような心が育ってほしいと思っています。また、互いの人権・文化・風習などを理解し尊重し合い、保育に取り入れていることを、保護者や地域の方々へ伝えていきます。養正保育所の特色ある環境で育っている子どもたちが、世界に向けた活動を夢見て、成長してくれることを願っています。

### 多文化共生イベント「イツ・ア・スモールワールド～世界はひとつ 共に育ちあう子どもたち」

養正保育所では、2010（平成22）年度から「イツ・ア・スモールワールド」というイベントを実施しており、本年度が4回目の開催です。このイベントは、各国についてのパネル展示・それぞれの国の音楽やダンスの紹介・日本文化紹介などをおし、日本人の子どもと外国籍の子どもが、互いを尊重し相互理解をする機会として、毎年開催されています。



## ● 報告2 —多文化共生と子育てについて—

Jafore（ジャホール）日本語を母語としない家族のための子育て支援チーム 西恵味氏からの報告

### ● Jaforeの活動について

2010（平成22）年5月から、外国語による情報の発信を行うウェブサイト「多言語子育て情報サイト」を開設しました。2012（平成24）年2月からは、外国から来た家族と、日本の家族の交流の場として「多言語子育てひろば」を毎月開催しています。

#### 活動目的

- ① 日常生活の中で、日本語を母語としない方のニーズを理解し、そうした方に寄り添い、サポートできる方を増やすこと
- ② 外国出身の家族が地域コミュニティと繋がり、地域で活躍できる場をつくりだすこと  
外国から来た家族に対し、寄り添うことができる人がいると解決できることも多くなるため、サポーターを増やすことは重要である。日本にきている外国人の方は元気で、エネルギーに溢れている方も多く、こうした方と関わることで、日本人側も学ぶことが多い。外国出身の家族に更に活躍してもらい、より魅力的な地域づくりに貢献してもらいたいと思う。

#### 主な活動

- ① ウェブサイト「多言語子育て情報サイト」の運営  
地域に密着した子育て情報を英語を中心とした多言語で発信している。日本語から英語への翻訳については、7～9人の翻訳ボランティアが対応。翻訳に関わることで、子育て特有の表現を知り、また、外国出身の家族の立場に立つ力を身に付けており、こうした方々が、将来的に地域での活動に関わるようになっていただければよいと思う。
- ② 「多言語子育てひろば」の開催  
外国から来た家族と、日本の家族の交流の場として月1回開催。多言語による絵本の読み聞かせや外国での子育て事情、日本での生活事情などについての話をしてもらっている。保護者にとっては、自国の話をしたり、母語で読み聞かせをすることが、日本で子育てをする励みになっていると感じている。地域に根差した情報の交換をしており、時には保護者の方が持ってきた幼稚園や小学校のお便りの翻訳をすることもあつた。  
また、これらをおして国や文化の違いから起こる悩みの共有ができています。（例 友人へのハグやキス）
- ③ 京都へ転入を考えている方からの問合せ対応  
観光客や一時滞在の方から、Jaforeのウェブサイトを見て、メールでの問合せがあり、情報提供をしている。転入を考えている方は、幼稚園や保育園が外国籍の子どもを受け入れているかどうかの詳細の問合せや、医療機関の受診方法についてなど、幼い子どもと生活をするにあたり、事前に情報を手に入れようとされている。しかし、的確な情報が得られない場合、家族を母国に残してくる方もいる。

## ●日本語を話さない子育て家族が抱えている問題について

- ・保育所や幼稚園に通っていない子どもの親たちから、遊べる場所を知りたい、友だちがほしいがどうしたらよいかなどの相談が多い。また、寄せられる質問も幼稚園はどこに行けばよいのか、というものから虫よけは何を使えば良いのか、といったものまで多岐にわたる。
- ・外国人の方が持つ悩みは、同じ地域で身近に相談できる方がいれば簡単に解決できるような小さなものが多い。しかし、実際はそういった話を出来る方がいないため、小さな困りごとが大きな話になることが多い。
- ・地域のコミュニティの中で、日本語を話さない家族が地域住民との繋がりを作り出すことは難しい。
- ・日本の幼稚園からの指示は細かく、準備物などを間違ってしまう、幼稚園と保護者の方との関係が悪くなることもある。子どもの日本語が上達せず、自分の思いを幼稚園で伝えることができず、親が心配しすぎてしまい、幼稚園をやめてしまうこともある。

## ●今後の展開について

- ・京都への転入を考えている家族へ提供する情報の充実に努めたい。例えば、京都市内の幼稚園・保育園・児童館への取材やアンケート調査をすることで、日本語を話さない家族の子どもの受け入れ状況や、保護者と外国語でのやり取りがどれだけできるかなどについて、ウェブサイトが多言語で提供できれば良いと思う。より多くの外国人家族が安心して京都で生活できるよう、サポートをすることが必要である。
- ・団体の運営については、ボランティアで行うことには限界があるため、法人化やソーシャルビジネスの立ち上げを視野にいれ、活動の展開の可能性について考えている。
- ・京都市内に住む家族が、確実にサービスを受けられる環境を作っていきたいと考えている。

## 2013 (平成25)年度第4回会議を開催しました

- <日時> 2014 (平成26)年2月4日 (火)  
午後1時～午後3時
- <場所> 京都市役所会議室
- <議題> 1 「多文化共生と高齢者福祉について」、  
2 「2013 (平成25)年度提言について」



### 報告 一多文化共生と高齢者福祉について一

京都市では外国籍市民等への高齢・障害福祉関連事業として、「京都市高齢・障害外国籍市民福祉サービス利用サポート助成事業」を実施している。これは、京都に暮らす外国籍、あるいは外国に文化的背景を持つ高齢者及び障害者が、必要な福祉サービスを利用することができるよう、外国語によるコミュニケーションが可能となるなどが訪問相談や福祉サービスの利用支援等を行う団体に対して、助成を行う事業である。この事業では、京都に暮らす外国籍や外国に文化的背景を持つ高齢者及び障害者のために、「外国人福祉委員」を育成し、要支援者の要請を受けて訪問、電話、相談対応等の活動を行っている。「京都市外国人高齢者・障がい者生活支援ネットワークモア」(京都モアネット)という団体が、実際の取組を担っている。今後、外国籍市民等の高齢化が予測される中で、こうした高齢者の様々なニーズに対応できる人材の育成が必要とされる。

## 2013 (平成25) 年度報告書を提出しました。

2013 (平成25) 年3月25日 (火)、京都市多文化施策懇話会を代表して西岡正子座長が、懇話会から京都市に対する提言を含めた「2013 (平成25) 年度報告書」を門川大作・京都市長に提出しました。



報告書の主な内容は以下のとおりです。

### ～ 提 言 ～

#### 1. 地域での多文化共生の促進について

・地域に根差した多文化交流活動拠点を増やし、各交流拠点間における連携をはかりながら、地域主体の多文化共生を推進すること

・行政と民間とが、その長所を生かし補完し合う形で、協働して多文化共生の促進に取り組むこと

#### 2. 多文化共生と高齢者福祉について

・外国籍市民や、外国に文化的背景を持つ市民の高齢化の状況について、その実態を把握して、課題を検証すること

・地域の外国籍高齢者や外国に文化的背景を持つ高齢者を支える人材の育成と、関係者・団体間のネットワークづくりをおこなうこと

#### 3. 外国籍市民等の子育てに係る支援及びネットワークづくりの促進

・外国籍、あるいは日本人との国際結婚により生まれた子どもをはじめとする、外国に文化的背景を持つ子どもたちの子育てに関わる方々の多文化理解の促進と人材の育成に努めること

・外国籍市民等の子育てに関する情報を、関係機関と連携して、確実に提供できるよう努めること

これらの提言を受けた門川市長は、「委員の皆様には、京都市の多文化共生の取組について大変熱心に議論していただきました。提言を重く受け止め、市民が取組の主体となれるようサポートをし、多文化共生を推進してまいります。」と述べました。

※報告書を御希望の方は事務局まで御連絡ください。また、報告書の内容は京都市国際化推進室のホームページに掲載しています。

### 事務局からのお知らせ

本ニュースレターや懇話会に関する御意見などがございましたら、下記までお寄せください。

(懇話会の会議はどなたでも傍聴することができます。)

また、懇話会ニュースレターのバックナンバーや英語版を御希望の方は、下記までお問い合わせください。

#### 京都市多文化施策懇話会事務局

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地 京都市総合企画局国際化推進室

TEL: 075-222-3072 FAX: 075-222-3055 Eメール: kokusai@city.kyoto.jp

ホームページ: <http://www.city.kyoto.lg.jp/somu/kokusai/>

